



京都産業大学のシンボルは、サギタリウス(射手座)。

ギリシャ神話に登場する賢者ケイロンが大宇宙を駆け巡る姿をかたどった星座は、
世界へ雄飛する若者への希望を表しています。



K50th 京都産業大学

2015年、50周年を迎えます

経済学部 経営学部 法学部 外国語学部 文化学部 理学部 工学部 コンピュータ理工学部 総合生命科学部
発行：京都産業大学 総務部校友担当 〒603-8555 京都市北区上賀茂本山 TEL.(075)705-1408

<http://www.kyoto-su.ac.jp/>

京都産業大学

神山祭

vol.2



学長メッセージ	1	学歌・応援歌	8
京都産業大学 沿革	2	神山祭レポート	9
京都産業大学の教育システム	2	キャンパスフラッシュ	11
むすびわざDNAプロジェクト	3	サギタリウス人 活躍する卒業生	13
サギタリウスNOW むすびわざ館	6	KSUコミュニティーサイトのご案内	14
キャンパスの今昔	7	同窓会報のご案内	14



「神山の絆」に寄せて

京都産業大学 学長
藤岡 一郎

「神山の絆」で結ばれる同窓の方々のご清祥でございます。ご活躍のことと拝察いたします。

日頃の同窓の方々の本学への深いご理解と力強いご支援に衷心より感謝申し上げます。

さて、昨年は本学にとりまして、創立50周年に当たる2015年に、次の展望を見据えた確かな歩みをスタートするために、その助走ともいうべき大切なこの2年余を充実した期間とする宣言を公表いたしました。そのスローガンは、「Keep Innovating.」で、詳細は本学のHPをご覧くださいと思いますが、「むすびわざDNAプロジェクト」のキックオフです。昨年の本誌にも記しましたように、現在の大学の在り様が問われ、京都産業大学もまたその在り様が問われていますから、建学の精神に立ち返り、そのDNAを継承し、研究力、教育力そして社会貢献力においてさらに飛躍を遂げ、社会の付託に応え得る必要があります。

昨年は、科研費などを含む外部資金獲得もさらに増加し、何よりも先生方の科研費申請件数がさらに増加したこと、教育力においても文科省の教育改善に関する補助事業に応募して、「グローバル人材育成支援事業」を含めこれまでにない5件の採択を受けたこと、これらは教職員の日ごろの努力の成果であり、また学生諸君も経済学部をはじめ他の学部を含め多くのゼミ学生による対外的な研究発表で好成绩を挙げています。もちろんスポーツにおいても久々に関西六大学野球の秋季リーグで優勝し、空手、自転車、居合道など個人戦で全国優勝を成し遂げるなど活躍しています。

本学の構成員のこの日頃の弛まぬ研鑽に感謝し大切にしたいと思えます。この潮流を絶やさぬようさらに充実したものとしたいと思います。今年の干支は、癸巳(きし)(みずのとみ)でその意味することは、「基準、法則に則り、筋道を立てて思考、行動をして、障害や摩擦、抵抗にあってもこれまでの因循姑息な行き方ではなく、主体的に進取改革に取り組み、

原点創業の精神にかえり、長期的視点で、理念、計画通りに事にあたり、創造的に展開を図ること」だとされています。

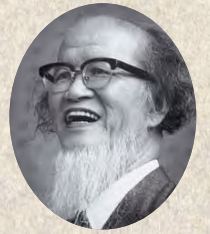
まさに干支に倣うまでもなく、長期的視点で挑戦し、創造的に展開し、昨年の成果の量的充実とともにによりもその質的充実の強化に今年も傾注しなければなりません。なかでもグローバル人材の育成は喫緊の国策の要請にも適うものであり、本学がその補助事業の対象になった以上、他の事業と同様にそれを成し遂げねばなりません。学生諸君の海外へ出かける機会が格段に増加するなどソフト面の費用は莫大になることでしょう。たとえば、これまで以上に奨学制度の拡大と内容の充実が必要になります。昨年も記しましたように、人材育成を使命のひとつとする大学において、本学で学ぶ意欲のある学生を挫折させてはならないし、優れた学生はさらに頑張ってもらいたい思いは、同窓のみなさまの思いだと思います。

この2年余同窓会支部訪問など事あるたびに、そのような思いを持つ多くの同窓の方々とお会いいたしました。叱咤激励を含むいろいろなアドバイスをいただくことは、本当に有難いことです。13万名に近い同窓の方々の量り知れない支えと力強い励ましを感得し、オール京都産業大学の教育力に感謝の気持ちでいっぱいです。このように後継者を共に育成することで「オール京都産業大学の構成員の循環の輪」は、さらに強固に繋がっていくのだと思います。これまでも本学の使命達成のために卓越したご貢献をなされた同窓のみなさまに改めて感謝し敬意を表するとともに、本学の思いに今後もご理解とご協力を衷心よりお願い申し上げる次第です。

この「神山の絆」誌がこの「オール京都産業大学の構成員の循環の輪」をさらに充実し、「むすびわざ」となることを願いますとともに、Keep Innovating.のスローガンのもと、同窓のみなさまの一層のご活躍を祈念いたします。

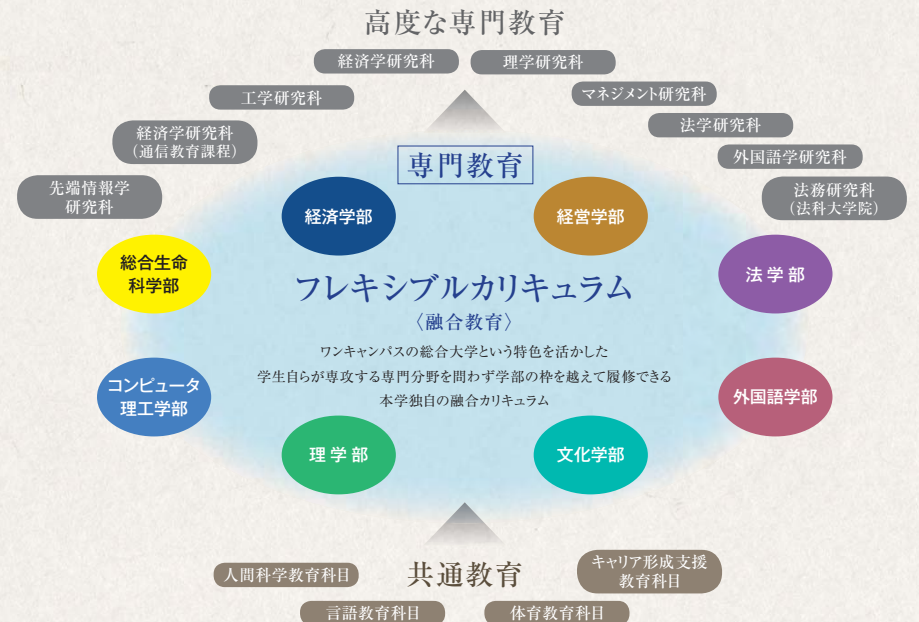
京都産業大学 沿革

- 1965(昭和40)年 4月 京都産業大学開学 経済学部・理学部
- 1967(昭和42)年 4月 経営学部・法学部・外国語学部開設
- 1969(昭和44)年 4月 理学部に応用数学科増設
大学院経済学研究科(経済学専攻)・理学研究科(数学専攻・物理学専攻)修士課程設置
- 1970(昭和45)年 4月 法学部に法学専攻科設置
- 1971(昭和46)年 4月 理学部応用数学科を「計算機科学科」に名称変更
外国語部に外国語専攻科設置
大学院経済学研究科と理学研究科に博士課程設置
- 1972(昭和47)年 4月 大学院法学研究科(法律学専攻)修士課程設置
- 1974(昭和49)年 3月 法学部法学専攻科廃止
4月 大学院法学研究科に博士課程設置
- 1977(昭和52)年 4月 大学院外国語学研究科(中国語専攻・言語学専攻)修士課程設置
学校法人京都産業大学すみれ幼稚園開園
- 1989(平成元)年 4月 工学部開設
- 1993(平成5)年 4月 大学院工学研究科(情報通信工学専攻・生理工学専攻)修士課程開設
- 1995(平成7)年 4月 大学院工学研究科博士課程開設
- 2000(平成12)年 4月 文化学部開設
- 2003(平成15)年 4月 理学部数学科、物理学科、計算機科学科をそれぞれ数理科学科、物理科学科、コンピュータ科学科に名称変更
- 2004(平成16)年 4月 大学院法務研究科(法科大学院)開設
大学院マネジメント研究科博士後期課程開設
- 2005(平成17)年 3月 外国語専攻科廃止
4月 大学院外国語学研究科(英米語学専攻)修士課程開設
- 2007(平成19)年 4月 経営学部ソーシヤル・マネジメント学科、会計ファイナンス学科増設
大学院経済学研究科(通信教育課程)開設
学校法人京都産業大学附属中学校・高等学校開校
- 2008(平成20)年 4月 コンピュータ理工学部開設
外国語部に国際関係学科増設
- 2009(平成21)年 4月 法学部に法政策学増設
大学院マネジメント研究科 コーポレート・コミュニケーション・コース開設
- 2010(平成22)年 4月 総合生命科学部開設
- 2011(平成23)年 4月 大学院先端情報学研究科(先端情報学専攻)修士課程開設
- 2012(平成24)年 4月 むすびわざ館(壬生校地)開設
附属中学校・高等学校壬生校地へ移転



創設者
荒木 俊馬先生

京都産業大学の教育システム



型やぶりの挑戦を続けて—2015年、創立50周年 「むすびわざDNAプロジェクト」が スタートします。

K 50th

ロゴマークに
込めた想い

「むすびわざ」をテーマに、大学名の頭文字の「K」をデザイン化。
「むすぶ」をイメージできるフォルムであるとともに、力強いライン構成
によって、社会にイノベーションを起こす意志の強さを表現しています。

世界が激動する今日、大学をはじめとする教育機関に求められるものが大きく変わりつつあります。グローバル化に対応した人材育成、地域再生の核となる取り組み、世界をリードするイノベーションの創出など、特に大学そのものの質的転換が求められています。

2015年、京都産業大学は創立50周年を迎えます。

この機会に私たちは、建学以来大切にしてきた「チャレンジ精神」を根幹においたアイデンティティを今一度見つめなおし、あらためて社会に発信してゆきたいと考えています。京都産業大学のアイデンティティ、それは「むすびわざ」です。

「むすびわざ」とは「産業」の読み方のひとつ。「新しい業(わざ)をむすぶ」と読み解きます。「むすぶ」は「むす」から派生した語であり、「産み出す」という意味を持ちます。京都産業大学の「産業」とは、まさに「むすびわざ」を表すのです。

「むすびわざ」が指し示す概念は、モノ、コト、そしてヒトを新しい発想で結びつけることにより、これまでない価値を社会に産み出すというもの。それはまさに「イノベーション」の概念そのものです。

本学は建学時より、積極的に産官学連携を提唱してまいりました。多種多様な業界に携わる人々の専門知が集う事で形成される「集合知」、そして個々の独創が出会う事で、新しい価値を発芽させる「共創」、これらを理念として、世界に通じる人づくりに邁進してまいりました。本学の歴史は「イノベーション」に挑戦し続けてきた軌跡にほかならないのです。

これまでの50年が、これからの未来への礎に。

新しい時代に挑戦し、社会に新しい価値を産み出し続ける。

Keep Innovating.

どんな時代にあっても、京都産業大学は型やぶりの挑戦を続けます。



「KSUフューチャーセンター」構想

「むすびわざDNAプロジェクト」を具現化するための場として、「KSUフューチャーセンター」の設立を構想中。
 専門知をさらに集合知へ、独創をさらに共創へ発展させる「むすびわざ」を積み重ねて、
 学内外から求められる新たな大学像を追求します。

4つのトライアルアクション

若手教職員約30人と学外のアドバイザーがチームとなり、半年間にわたってワークセッションを実施。約50案もの活動アイデアから、KSUフューチャーセンターで実施する「トライアルアクション」を策定しました。

ワークセッションは、2012年の春から秋にかけて繰り返し開催。多くの参加者からのアイデアの連鎖によって新たなアイデアの創発が導かれる、創発型コラボレーションのプロセスを経て行われました。

建学以来のアイデンティティである「むすびわざ」とは何か？その精神を具体的に展開するには？さまざまなアイデアを抽出しては吟味し、本学の未来像にふさわしいトライアルアクションをここに始動させます。

#1

学生とともに考える 未来型授業開発プロジェクト

学生と教職員を中心に学外の意見も巻き込んで、熱中できる質の高い授業を開発。
 新しい教育モデルを生み出し、大学での主体的な学びを育みます。

#2

寮教育強化プロジェクト

教育寮で「共創する力」を育成し、グループワークの拠点も設置。
 社会改革のエンジンとなり得るエリート人材を輩出していきます。



#3

多読ラーニングプロジェクト

多読ラーニングプロジェクトによって国語学習の強化と日本文化の再認識に。
 学生の質向上、留学生の獲得だけでなく、地域の方々の生涯学習にも貢献します。

#4

ミツバチプロジェクト

ミツバチ研究を、養蜂産業の支援から医療、環境教育、
 地域振興にまで活用。
 専門知識を広く応用できる人材を育成します。



京都産業大学は、1965(昭和40)年、宇宙物理学者・荒木俊馬によって、京都・神山の地に創設され、2015(平成27)年に50周年を迎えます。この50周年記念事業の一環として、京都・壬生に本学と社会を結ぶ「知」の発信拠点となる新施設「むすびわざ館」を開館しました。荒木俊馬は「産業」を「むすびわざ」と表し、「新しい業(わざ)をむすぶ」という意味を含めました。また「むすぶ」は「産(む)す」という語源を持つことから、「産み出す」と解しています。

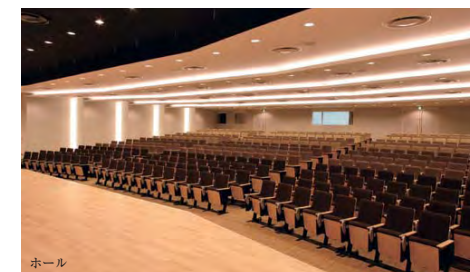
「新しい業(わざ)をむすび、そして新しいものを産み出す」これは、京都産業大学が創立時から大切にしてきた精神であり、それにちなんで「むすびわざ館」と命名されました。

これからの世界に希望の光を照らすような、新しい業(わざ)を、価値を、そして人材を産み出す、その先駆けを担うのが「むすびわざ館」の使命です。

1階<管理・カフェフロア>の相談用ブースでは法務研究科の授業を兼ねた無料法律相談等を実施。食堂・カフェは学生のほか、館内を利用される地域の方々もご利用いただけます。

2階<コミュニケーションフロア>のむすびわざ館ホールは420人収容、各種研究会・講演会を開催、一般開放を行います。むすびわざ館ギャラリーでは、大学創設時に導入された当時最先端の大型コンピュータ「TOSBAC-3400」を常設展示しております。

3階・4階<教室・研究フロア>には、160名収容の大教室、他8教室があり、各種公開講座等を行います。



ホール



ギャラリー



むすびわざ館 開館記念式典 開催

開館に先立ち、3月20日、壬生校地開設・むすびわざ館開館記念式典が行われ、京都府・京都市の行政をはじめ、企業、大学関係者など約310人が参加しました。

式典で挨拶を行った柿野欽吾理事長は、今後も上賀茂・神山の地にすべての学部・大学院が集う一拠点の考えは堅持しながら、「社会連携、社会貢献、地域交流の場として、新しい知恵を生み出す拠点となれば」とこれからの期待を述べました。

式典の司会は本学卒業生のタレント・谷口キヨコ氏が務め、また、同じく卒業生でタレント・墨遊家として活躍する原田伸郎氏による「むすびわざ」の書作品披露も行われ、西陣織工業組合からは、西陣織で制作された国旗と学旗が寄贈された。



◎ 神山祭レポート

- 2012年10月31日、神山ホール大ホールでのオープニングセレモニーを皮切りに、第47回「神山祭」が11月2日から4日までの3日間、「京産大作戦」をテーマに開催されました。
- 神山祭期間中に本学同窓会主催の「ホームカミングデー」、11月4日には、本学主催の「第7期生の集い」が行われ、数多くの卒業生が参加されました。
- 第48回の開催準備も既に進んでおり、母校を懐かしむ場として、引き続き「神山祭」にご期待をお寄せください。

第47回
テーマ

京産大作戦

オープニングセレモニー



📷 写真で振り返る 懐かしの神山祭



第1回 神山祭



第2回 神山祭



往年のパフレット

※「」内は各年のテーマ



第11回(1976年)パンフレット
「神山に我等の情熱を」



第12回(1977年)パンフレット
「限りなき可能性を求めて」



第13回(1978年)パンフレット

「未来への憧憬と創造」



第14回(1979年)パンフレット
「自己の超克
—今、真の自分を見いだせ—」



第15回(1980年)パンフレット
「でかくなれ! 産大人」



第16回(1981年)パンフレット
「パーソナルアセスメント
君は天動説を棄てられるか」



第17回(1982年)パンフレット
「漂流時代
—塵と生きるか星と輝くか—」



第18回(1983年)パンフレット
「過保護ヲ冷酷ナ
時代ニ物申ス!」



第19回(1984年)パンフレット
「今、成長しすぎた
メディアが僕を喰べる…」



第20回(1985年)パンフレット
「1/13000の偉大な力
築け神山の城」

京都産業大学同期会の開催

(第7期生<昭和46年入学>の集い)

第1・2期生の有志により開催された同期会はその後大学が継承し、入学年ごとに、毎年本学にて開催しています。本学にご入学、学生生活を経てご卒業、その後、社会人としてあらゆる分野でご活躍されてこられた方が、還暦・定年等の迎えられる転機にあたり、社会人への出発点(原点)であった母校京都産業大学にお迎えし、お祝いするとともに、新たな人生の出発にエールを送ることから、京都産業大学同期会を開催しています。



第7期生の集い
(2012.11.4)

ホームカミングデーに ご来場ありがとうございました

11月2日～4日の神山祭期間中に開催した、第27回ホームカミングデーにご来場いただきました皆様、ありがとうございました。

3日間の期間中に、卒業生のみなさま、ご家族・ご友人のみなさま併せて、785名の方にお越しいただきました。また、7つの支部・OB会のみなさまも多数お越しいただきまして、会場となった大学8号館4階の食堂では、最終卒業生の皆様の会話と笑顔に溢れておりました。

在学時とすっかり変わった大学の景色や、新校舎の工事の様子など、大学の変わりように驚かれた方も多かったのではないのでしょうか。

来年も、神山祭期間中に開催予定しておりますので、多数の卒業生の皆様のご来場をお待ちいたしております。



卒業式 挙行(第44期生)

●3月24日、25日に2011(平成23)年度卒業式(学位授与式)が挙行され、学部生2,630人、大学院生85人に学位が授与された。

●藤岡一郎学長は「京都産業大学の『産業』は学歌にもうたわれている通り「む(産)すびわ(業)」と読まれ、多様な人々やまのごとの結びつきから新しいものを産み、創造するという意味がある。新しいものを産みだし、実践する不撓不屈のチャレンジ精神は京都産業大学にこれまで培われたDNA。それを受け継いだ皆さんは現代の抱える困難な課題解決に向け新たな創造、イノベーションにチャレンジしてほしい」と、船出を迎える卒業生にメッセージを送った。

●9月22日(土)、平成24年度春学期卒業式が神山ホールで行われ、計131人の学部生が本学を巣立った。



平成24年度 入学式 挙行

●4月1日(日)、2日(月)、神山ホールにて、平成24年度の入学式が行われた。全8学部の学部生計3,117人が新たなスタートを切った。また1日には大学院の入学式も行われ、88人が入学した。

●藤岡一郎学長は「激動の時代のなか、希望あふれる社会を実現するために、若い皆さん一人一人に社会に貢献する使命と責任があることを忘れず、自分自身づくり、すなわち学歌にも歌われている『現身(うつしみ)の形造り』に励み、充実した大学生生活を送ってほしいと願っています」と新入生を激励した。



創立50周年記念事業

「むすびわぎDNAプロジェクト」始動宣言式典 開催

●11月27日、2015年の創立50周年に向けた記念事業「むすびわぎDNAプロジェクト」始動宣言式典を神山ホールで開催し、大学の頭文字「K」と「むすびわぎ」をイメージしたロゴマークと、スローガン「Keep Innovating.」を発表した。

●京都産業大学の大学名にある「産業」は、「むすびわぎ」とも読み「新しい業(わざ)をむすび、新しいものを産み出す」という意味が込められている。「むすびわぎ」は現代でいう「イノベーション」の概念につながることから、学内外のさまざまなリソースと知恵を結び、新たに共創していく「むすびわぎDNAプロジェクト」の実施を藤岡一郎学長が発表した。

●また、プロジェクトのプラットフォームである「KSUフューチャーセンター」設立の構想も発表。一拠点総合大学の利点を活かしながら、大学内の学部・部署、教員・職員・学生の立場を越え、学外からの知恵・提言も積極的に取り入れながらフラットな対話を行う中からアイデアと情報が集散する場を目指すという構想について、山岸博嗣学長が説明を行った。



●さらに、「むすびわぎDNAプロジェクト」の実践的モデルとして「未来型授業開発プロジェクト」「寮教育強化プロジェクト」「多読ラーニングプロジェクト」「ミツバチプロジェクト」の4つのトライアルアクション事例を教職員の代表者が紹介した。これは「京都産業大学が果たすべき人づくり」をテーマに、2012年4月から教職員が行っているワークセッションの中から出されたアイデアで、本学の「ミツバチ産業科学研究センター」の成果を、環境教育・地域振興など広く社会に役立てるものとして活用を検討する「ミツバチプロジェクト」は、式典後に第2部として行われたフォーラムでも詳しく説明された。

●式典には企業・自治体や教育関係者、同窓会関係者など大学関係者や、教職員の約700人が参加。卒業生でタレントのハイヒールリングさんも登壇し、プロジェクト内容について説明する職員との軽妙なやりとりで会場を盛り上げた。

新たな校舎等の建築

新1号館

●現在の情報技術実験室棟を取り壊し、新たに理学部(現2号館)の教育・研究を展開させる校舎として新1号館を建設します。事務室の機能としては、理学部事務室の他、本学入学の窓口となっています。「入学センター」事務室を、建物の1階正面に移転・配置します。また、上下左右の学生移動導線の利便性向上を図るため、三叉路から新校舎にかけてエスカレータの設置と、10号館から12号館を結ぶ歩道拡幅の整備を行います。



竣工予定
平成25年8月

新7号館

●現在の3号館前学生ステージのある場所に、第2の福利厚生棟として新7号館を建設します。建物には、現在の保健管理センター、1号館からは学生相談室、7号館から食堂施設及び学生自治団体の一部、そして放送局を移転・集約させます。なお、現在の学生ステージは、新7号館に併設します。



竣工予定
平成25年8月

書庫棟

●現在の中央図書館に併設する形で書庫棟を建設しました。書庫棟には、希望の図書を、中央図書館メインカウンターからコンピュータ操作により、コンテナを自動で搬送してくれる「自動化書庫」(収容冊数約80万冊)を設置しています。



竣工
平成24年9月

中央図書館および第2実験室棟エレベーター

●中央図書館と第2実験室棟にエレベーターを設置します。なお、第2実験室棟にはエレベーターの設置に併せ、13号館前にかけての渡り廊下を設置します。



竣工予定
平成25年3月

8号館横周回道路

●理工系学部棟建設時に設置しました14号館横の道路と8号館横を結ぶ道路を、菖蒲池の路肩に沿って新たに設置します。この道路の設置により、鞍馬街道を通行せず学内を周回することが可能になり、併せて防災機能も向上させます。



竣工予定
平成25年5月

